

# 聖徳ゴミ拾いし隊 活動報告—

南井 洋人\*1

指導教員：山名 和樹\*2・三岡 恵子\*2

Email: k\_yamana@shotoku.ed.jp

\*1: 聖徳学園高等学校

\*2: 聖徳学園高等学校

◎Key Words 聖徳ゴミ拾いし隊, 仮装ゴミ拾い, ゴミ拾いイベント,

## 1. はじめに

私たちは昨年の6月から『聖徳ゴミ拾いし隊』として活動を重ねてきた。具体的な活動としては、毎週2時間前後「仮装」をしてゴミ拾いを行うというものだ。目標として、テスト勉強や行事などの学生の本分と照らしあわせ、ただゴミ拾い活動を行うのではなく、ゴミ拾いをカッコいいと思ってもらうこと、ゴミ拾いに興味関心を持ってもらうこととした。時期によっては、テストや行事などが重なり満足に活動を行えないこともあったが、ホームページやSNSなどを自作し、自分達独自の楽しみを追求しながら目標を達成できた。そして今後大規模なゴミ拾いイベントの開催も計画している。今回は私たちの活動についてと、これからの展望について紹介していきたい。



図1 主要活動メンバー

## 2. プロジェクトの発足

まずなぜこの『ゴミ拾いし隊』が発足したのかについて紹介していく。私たちが所属している聖徳学園ではSTEAMという授業があり、その中で自分達が地域にどのような貢献ができるかを考え、少ない予算の中で実践していく。先輩が行った地域貢献プロジェクトの成果についてのプレゼンテーションを視聴したことがきっかけで社会問題について関心を持つようになった。そこから自分なら何が出来るかを考えるようになり、そこで思っていたのが、継続してゴミ拾いを行うことだった。そして

活動を始める前に友人たちと共に、大人数で短時間のゴミ拾いを実行した。そこで普段何気なく過ごしている街にこんなにもゴミがあったのかと気付かされた。だがそれ以上にゴミ拾いが「楽しい」ということに気づき、驚いた。具体的にどのような事が楽しいかと言うと、感覚としては宝探しに近く、ゴミを見つけるたびに新しい発見をしているように感じた。活動の中で友人としたゴミについてのトークなど普段とは違ったコミュニケーションを取れたことも楽しく感じた要因の一つだと考える。そしてなにより、自分の行動が街を少しだけ綺麗にした、社会貢献ができたという感覚が一番私たちをトリコにした。この感覚をより多くの人に知ってもらいたい、ゴミ拾いの魅力にハマってほしい、そう思うようになった。そうしてプロジェクトを立ち上げ手伝ってくれるメンバーを募り、『ゴミ拾いし隊』は始動した。



図2 初回大人数によるゴミ拾い活動メンバー

## 3. 仮装について

次に仮装の意義と期待される効果、そして結果について述べたい。まず仮装の意義についてだがここに至ったのはある問題に直面したからであった。それは私たちの目標である「ゴミ拾いをカッコいいと感じてもらい」、「ゴミ拾いに興味を持ってもらう」ということが達成しにくい、また活動を続けるには根気が必要であり、街の人の目に留まりにくいということだった。これらを解決するために取り入れたのが仮装であった。私たちは普段からいかに楽しく、学生らしく活動するにはどうしたらいいか

を考えていた。なぜなら、私たちは自分達が楽しむ延長線上で目標を達成する事が大切だと考えたからである。これが成されなければ『ゴミ拾いし隊』はただの作業として活動を行うことになってしまう。それではロボットと一緒に感じ、自分たちで率先して、永続的に活動をするには「楽しむ」ということこそがポイントだと考えた。実際に仮装を取り入れ、僕らが活動を楽しむようになると、驚くことに前述した問題点が全て解決した。自主的にゴミ拾いを手伝ってくれる友人が増え、道ゆく人、子供、その親や、ラーメン屋の店長、おじさんおばさんなど年代問わず多くの人に声をかけてもらえるようになった。なかでも子供に「またあの人たちがゴミ拾いをしている！」と言われたことがあり、多くの人の目に留まり、その存在を覚えてもらっていることから「ゴミ拾いをかっこいいと感じてもらおう」や、「ゴミ拾いに興味を持ってもらおう」という目標の達成にもつながった。そしてなによりも、自分たちの意識が根本的に変わった。「ご苦労様」「ありがとうね」「お疲れ様です」など、かけていただく言葉はどれも温かく、それらが次回のモチベーションとなった。通常、授業のための作業のような活動になりがちだったが、仮装を取り入れてからは率先して、「今週はいつやる!？」と言うようにそれまで以上に自分達から活動を行なえるようになった。まさに今自分たちになにができるのかという授業の枠を超えた取り組みとなった。このようなこともあり、自分たちの行動に自信が持てるようになり、活動を行う前と比べて学校行事やクラス行事などで積極的に活動をし、発言できるようにもなった。



図3 ゴミ拾い活動風景

#### 4. ゴミについて

今まで一年弱活動を続けてきて、ある程度ゴミの落ちているスポットや、場所によって落ちているゴミの差異について気がつくことができた。まず道路についてだが、道路の隅や車道と歩道を隔てるガードレールの下や花壇の中にタバコの吸い殻、菓子パンのゴミなどが多く点在していた。そしてそのゴミはコンビニに近づけば近づくほど多くなり、コンビニがない住宅街に行くと上記のような場所にもそういったゴミがなくなり、コンビニをよく利用する者として複雑な気持ちになった。そしてなによりも驚いたのはガードレールの中にゴミを詰め込

む人がいることだ。コンビニの近くのガードレールによくこのような光景がある。



図4 ポイ捨ての実態 (1)

信号の待ち時間などにこれらを参考にして周りを見てみてほしい。他にも自販機の下や裏には飲料系のゴミ、駐車場にはタバコの吸い殻やライター、タバコの箱などが大量に捨てられていたがこれらは想像に難しくない。ここで一つ、ゴミ分別の時に私たちが体験した事例について紹介したい。私たちはいつもどおりに回収したゴミを再度分別し、飲料系のゴミの中を洗浄してラベルとキャップを分別していた。その時だった。コーヒの缶を開けると何故かタバコの匂いがするのだ。そのコーヒ缶の中には目一杯にタバコの吸い殻が詰め込まれていた。それ以降私たちは飲料系のゴミ、特に中が見えないコーヒ缶などのゴミの洗浄を行う時に警戒するようになった。こういったゴミはリサイクルの妨げになるため、なくしていきたいと参加者一同が願った瞬間でもあった。ポイ捨てゴミを減らすことが海洋プラスチック問題などの環境問題を改善する一歩になるのではないかと考える。



図5 ポイ捨ての実態 (2)

#### 5. 製作したホームページについて

私たちは自分達の目標を達成し、自分達の活動を広げるためにホームページを自作した。ホームページには活動内容、目標、活動のきっかけなどたくさんの方が記載されている。今回はこれらの中でも3つ取り上げて紹介していく。





図6 ホームページトップとゴミ拾い成果

一つ目は活動場所、ゴミ分別表の記載についてだ。ここには私たちが普段ゴミ拾いを行なっているルートや、そのルートのどこにゴミが多いかなどをわかりやすく色付きで地図にまとめて掲載している。



図7 ホームページ ゴミ分別、活動場所ページ

二つ目は武蔵野市のゴミ分別についてだ。例えば燃えるゴミや特殊ゴミをいつ出すのかわからない、と言った時に指定された場所をタップすると武蔵野市の正しいゴミの出し方、曜日などを簡単に確認できるようになっている。

三つ目は活動の記録と詳細についてだ。ここには曜日、参加人数、時間、活動ルート、所見、目的、集まったゴミの写真などが記載されている。リアルタイム更新で活動するごとに内容を増やしている。

ホームページリンク

<https://osoujidaisakusenwi.wixsite.com/my-site>

## 6. SNS について

今まではホームページ一筋だったが、活動を広げるためにインスタグラムでの活動も昨年からは行っている。ここでも活動の内容などをコメントや感想を添えて投稿している。

## 7. イベントについて

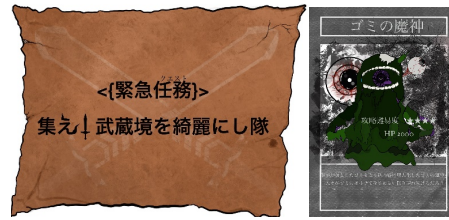


図8 イベント 集え！武蔵境を綺麗にしたい

私たちは色々な思いから多くの人がゴミ拾いに対するハードルが高いのではないかと考え、そのような思いを払拭するために参加型のイベントを行うことを計画している。それらを払拭するために楽しいイベントを開催したいと考え、楽しいイベントとは何かと熟考を重ねた結果、ゲームがいいのではないかと考えに至った。そのゲームは、まずそれぞれのゴミに得点を割り振り、ゴミ拾いを行い、集めたゴミからその合計得点を算出する。そのポイントを用いて敵を討伐し、その討伐数、討伐難易度に応じて景品がもらえる、といったものだ。

### 7.1 敵について

我々がゴミを模した敵をデザインし、その敵にHP (ヒットポイント) を設け、そのHPを集めたゴミのポイント使って、ゼロにする事で討伐完了となる。



図9 イベント 敵イメージ

### 7.2 景品について

景品については我々でまだ精査している段階だが、現在話し合いで出ていることについて紹介する。無難に駄菓子や、ジュースでもいいのではないかと案も出たが、のちにゴミが出てしまう。そこで長く使えるもので何個あっても困らないものとして、水筒やTシャツなどを検討している。

### 7.3 資金面や達成に向けて

イベントに必要な資金に関しては数ヶ月前から ready for というクラウドファンディングサイトとメールでのやりとりを重ね実現に向けて行動している。

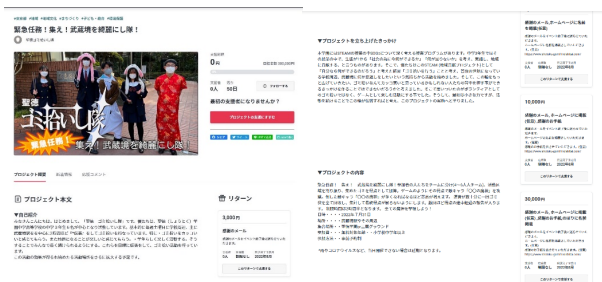


図 10 クラウドファンディング

そして実現をより強固なものにするため、武蔵野市の市長宛に活動報告文とイベントの展望についての文章を提出した。これにより武蔵野市のゴミ拾い用ゴミ袋の利用がしやすくなることや、同じ志をもった人たちと活動を共有していくことで、現在武蔵野市だけの活動が武蔵野市全体、ひいては都全体に結びつき広がることを期待している。



図 11 市長への手紙

## 8. 課題とその対策

現在は集めたごみを写真で保存し、掲載しているだけだが、今後は集めたごみとその場所をデータ化し、インスタグラムやホームページなどで周知、拡散していく。そして今後、ポイ捨てがされないような対策を考え、根本的にポイ捨てがされにくい街にしていきたい。

## 9. 終わりに

この活動を通してゴミ拾いの楽しさや、人の温かさを知り、自分に何が足りないか、どうやったら社会が良くなるかをじっくり考えられ、成長することができた。一学生にやれることは限られているが、今まで協力してくれた人に恥じないように、ゴミ拾いの輪を拡げていくために自分たちにできることを今後も最大限模索していきたい。